

季節、めぐりそれぞれの居場所



いっしょに見つめてみませんか？
 ともにつくった、それぞれの居場所。
 それぞれの“生”への想像力――

監督は「ただいまそれぞれの居場所」で、自ら理想とする介護を実現しようと施設・事業所を立ち上げた若者たちを描き、平成二十二年度文化庁映画賞・文化記録映画大賞を受賞した大宮浩一。人と深く関わることのよろこび。人生最期の時間とともに過ごし、その瞬間に立ち会う若いスタッフたちの葛藤。そして、家族の想い。すべてがないまぜとなって、私たちが今まさに生きている季節を彩りゆたかに映し出していきます。

本作に登場するのは、老舗の福祉施設（埼玉県坂戸市）、若者が立ち上げた宅老所（千葉県木更津市）、雪が舞う北の地で続くデイサービス（青森県北津軽郡）、そして、東日本大震災直後の特別養護老人ホーム（岩手県宮古市）、真夏の被災地ではじまった寄り合いサロン（宮城県石巻市）。映画は、「介護」や「ケア」と呼ばれるいとなみのなかで、利用者と介護スタッフたちがともにつくりあげた。それぞれの居場所を見つめます。そこでは、「老いや死」と向き合うことで培われた、それぞれの「生」への想像力が息づいています。



ビートル雑誌事業社「元気の巻さん」「近まるサービスセンター」 NPO法人「愛媛県立」 NPO法人「井ノ口町会」 お茶にスーパースタイル「お茶に」 料理者「料理者の家路のみさん」 スキップ「スキップの家路のみさん」

[illegible]

協力：宝島社雑誌部、ホームページ、東京府東武東上線・川越駅北口駅前ビル 制作：本編 製作：奥野 大助映像製作所 2002年・10月・16日 長さ：約17分・カラー・4/3形式 日本各地映画館上映中 www.kisetsumegun.com

死ぬためではなく、生きるために、生きてます！
津波でゼーンが流された。病で身体は倒れた。
そして老いまでやってきた。
それでも人類は、、、まだ、生きてるし！
「介護」とは、チョーおもしろい営みです。
なにしろ、「ナマモノ」が相手ですから。
人類として、自分勝手なくせに優しい
「ナマモノ」が、好きになっちゃう映画です。

大野更紗さん 作家
『困ってるひと』著者

誰かを糾弾しては潰しにかかり、何かを持ち出しては脅迫する。それで変わる社会もあるだろう。しかし、そこに必要とされる「酸」や「毒劇」、浅はかな「希望」だけでは変わりえぬ社会もある。本作に描かれる、一見無秩序にすら見えるそれぞれの「居場所」の風景は、その「変わりえぬ社会」の虚をついた実践の記録に他ならない。映し出される明るい景色の中には「ともに生活する仲間」と「喜びの物語」が潜れている。ここにこそ未来がある。

開沼博さん 社会学者
『アフガニスタン』 藤子ゆづりはなぜ生まれたのか? (講談社)

前作「ただいま それぞれの居場所」は、介護職の間で話題になり、いまだに全国各地で自主上映が続いている。

いい居場所こそがいい死に場所である。医療に丸投げするな。そして「ストン節」(映画冒頭)で送ろう。生活の場での善取りを創り出している人たちのドキュメント。

介護関係者のみならず必見。

三好春樹さん 生活とリハビリ研究所 代表
『月刊リハビリ』編集人

4月14日(土)ロードショー

前売特別鑑賞券¥1,300発売中

「手紙、おひさし」
サトウ・ハチロー


 中国管理科学学会
 中国管理科学学会成立二十周年纪念册
 1983-2003

ポレポレ東中野

03(3371)0088

Map showing the location of the building (indicated by a red square) near JR Nishi-Shinjuku Station. The map includes labels for the station, the building, and surrounding streets.

前売りチケットを八王子生活館で取り扱います。この通信をご覧になった方には、**1200 円**の**特別価格**にて販売いたしますので、ご希望の方は、ファックスかメールでご連絡ください。